

日本大学
生物資源科学部

校友会会報

2009 第62号

あなたとともに
100万人の仲間とともに



自主創造
日本大学

《目次》

今こそ眠れる獅子が目覚める時	2
母校の発展に	2
平成21年度総会・60周年記念式典開催 ...	3
平成20年度校友会決算および 平成21年度校友会会計予算	3
農学校友会（植物資源科学科）	4
紫友会（生命化学科）	4
角笛会（獣医学科）	5
満喜葉会（動物資源科学科）	5
いもづる会（食品経済学科）	6
あすなろ会（森林資源科学科）	6
桜水会（海洋生物資源科学科）	7

工学会（生物環境工学科）	7
F T会（食品生命学科）	8
拓友会（国際地域開発学科）	8
短期大学部湘南校友会 （短期大学部生物資源学科）	9
応用生物科学科校友会 （応用生物科学科）	9
支部だより	10.11
校友だより	11.12
校友会事務局からのお願い	12
平成22年度通常総会通知	12
校友会役員・事務局名簿	12

今こそ眠れる獅子が目覚めるとき

—生物資源科学部校友会創立60周年を迎えて—

日本大学生物資源科学部 学部長 徳山 龍 明

日本大学生物資源科学部校友会の皆様におかれましては、平素より、当学部の教育・研究ならびに学生支援等にご理解と多大なご協力をいただき、学部長として学部を代表し、厚くお礼申し上げます。

輝かしい歴史と伝統を誇る日本大学生物資源科学部校友会が過日、創立60周年を迎え、盛大な祝賀会が開催されましたことを校友の一人として心から嬉しく感じているところでございます。

また、9月26日には、日本大学発祥の地である法学部の大講堂において、約1000名の参加者を得て日本大学120周年記念シンポジウムが開催されました。「日本大学の未来を考える—新たな挑戦—」と題して活発な討論が展開されましたことを学部校友会の皆様にご報告させていただきます。酒井健夫総長の基調講演のなかに、「日本大学は、本学のもつ本来の潜在力を引き出せずに、眠れる獅子に甘んじています。いま本学に求められるのは、長期戦略にもとづく抜本的改革である。」というお話がございました。日本大学は世界的な視野と自主創造の精神をもって発展を遂げ、14学部83学科、大学院、短期大学部などから構成される総合大学に成長したことは、皆様、ご存知のとおりです。100万人に達した校友の絆とそのパワーは、世界的にも例を見ないスケールです。日本大学と校友の皆様が一体になって帰属意識と愛校心を昂揚させ改革に邁進すれば、同僚の総合私立大学を凌駕・圧倒する教育研究組織としてさらに発展する素地は十分に持ち合わせていると考えています。

その巨大な眠れる獅子「日本大学」を覚醒させる先導的な役割をはたすのは、他ならぬ「生物資源科学部」ではないのでしょうか。当学部は、21世紀に人類

が地球規模で抱える、避けては通れない重要課題、つまり生命科学、環境科学、食科学を包括的に教育・研究する体制が整っているからです。つまり、本学部が標榜するこれらの教育理念は、まさに、日本大学の戦略的課題と一致しているからであります。

旧農学部・農獣医学部を発展的に改組して発足した生物資源科学部が、日本大学の牽引役を果たせるのも、戦後の復興期から60年をかけて先輩諸氏がたゆまぬご努力とご尽力をなさって来られた賜でございます。現在に至る優れた教育研究環境と体制を構築・整備して下さった当学部の先輩諸兄姉に深甚なる敬意を捧げ、全教職員を代表して厚くお礼申し上げます。

私立大学では、大学の発展に貢献した先人や多くの先輩諸兄姉に対する敬愛の念と帰属意識の昂揚を図る目的で、「自校教育」を重要課題と捉え、私は開講式等、機会あるごとに在学生に講話いたしているところでございます。

当学部はそれぞれの時代の趨勢と要請に則した知識と技術を備えた有為な人材を社会に輩出して参りました。実業界をはじめ、官界・行政等のそれぞれの分野における、第一線で当学部の卒業生が華々しく活躍し、社会から高い評価を受けていることを、母校に籍を置く卒業生の一人としてたいへん誇りに感じているところでございます。

二十一世紀を担う有為な人材の育成に、私は教員の一人として微力ながら全力を傾注する所存です。私立大学には建学の精神があります。「校友」・「教職員」・「在校生」がいわゆる「学びの共同体」として目標と方向性を共有することに、また、在校生の当学部に対する帰属意識の醸成と向上に私は力を注いで参ります。この地道な努力が学部校友会の

隆盛と発展に寄与するものと考えている

からです。日本大学生物資源科学部の飛躍と発展を願う私の気持ちは学部校友会の皆様と同じです。「校友会」・「学部」・「大学」の三者が一体となつてこそ、強力な相加・相乗効果が期待できるものと確信しております。この観点からも、生物資源科学部校友会の皆様のごさらなるお力添えをお願い申し上げます。

在校生が卒業し、社会のそれぞれの分野で活躍し、貢献している姿ほど私たち教職員が誇りに感じることはありません。この意味で就職指導、いわゆる「出口管理」に従前から学部をあげて取り組んで参りました。昨今は以前の就職事情とは一変し、顕在化した世界的な不況のなか、学部として就職セミナーや企業説明会等を頻繁に開催し、関係部署が在学生の皆さんに対する就職指導に万全を期しているところです。かつての就職氷河期を上回る昨今の就職難と当学部の取り組みをご賢察いただき、在校生に対する就職についても校友会の皆様のご絶大なるお力添えをいただきたくお願い申し上げます。

また、優れた人材の育成は大学教育だけで完結するものではありません。卒前教育を担当する「大学」と卒後教育を担当して下さる「社会」が緊密な連携を図り、初めて社会が求める学士力教育と実学教育が実践できるものと考えています。この観点からも生物資源科学部校友会の皆様のごさらなるご支援をよろしくお願いいたします。

稿を結ぶにあたり、生物資源科学部校友会の皆様のご健勝と一層のご活躍をお祈り申し上げます。



母校の発展に

日本大学生物資源科学部校友会 会長 内田 俊太郎

先日ある校友から、『学校を卒業し、一生懸命働き・家庭を築き・子供を育て・定年を迎えた方々のこれからの生き方、と言う座談会に出席していた時、私はお世話になった恩師にお礼を申し上げ、人生の出発点である母校に感謝しこれからの人生を考えて見ようと思ひ立ちました。その後間もなく、私は三軒茶屋の農獣医学部から六会会の生物資源科学部への道をたどる事にしました。三軒茶屋の農獣医学部校舎は、今も通門門から学生が出てくるのではないかと思います。昔のままの姿で門を閉じていました。三軒茶屋の校舎が今後どの様な形

で生まれ変わるのかと考えながら三軒茶屋から懐かしい玉電に乗り、豪徳寺で小田急線に乗り換え六会日大前に降りたちました。生物資源科学部は私の想像を遙かに超えた規模で堂々と建っていました。お世話になった恩師は既にお亡くなりになっていましたが、恩師の教育・研究を継いだ多くの後輩が学生の指導にあたっていました。(一部省略)』と言うお手紙を頂きました。

私はこの手紙を読んでこれこそ校友会の原点であると思いました。

私は、校友会は「大学と校友を結ぶ架け橋」であると思っています。

私達一人一人は微力でも学部校友8万人の力を結集し、創立120周年を迎える日本大学を支援すると共に、学部発展・学生支援・校友の絆の強化を合言葉に大きな架け橋を作って行くではありませんか。

日本大学生物資源科学部校友会会報第62号発刊にあたり、今後とも校友の皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げご挨拶と致します。



平成21年度総会・60周年記念式典開催される

平成21年度総会、60周年記念講演、60周年記念式典・懇親会が平成21年7月11日(土)品川プリンスホテル・メインタワー「軽井沢」、「箱根」にて開催されました。「軽井沢」にて開催された総会には90名を超える会員が参加し、一時間に亘る熱心な討議が行われ、平成21年度の全ての議案が承認されました。

その後同じ会場にて開催された校友会創立60周年記念講演では、お忙しい中、酒井健夫日本大学総長に「自主創造の理念の下で生物資源科学部のさらなる発展を」と題して学部の将来を見据えたご講演を賜りました。140名を超える参加者で熱気溢れる



平成21年度総会・記念講演集合写真
満席の講演会となり、講演後に内田会長より酒井総長に花束を贈呈し感謝申し上げます。

記念式典・懇親会は「箱根」に会場を移し200名を超える参加者をお迎えし盛大に開催されました。赤塚敏夫60周年記念行事実行委員長の開会の挨拶の後、物故者への黙祷、校歌斉唱、内田会長挨拶と続き、酒井健夫総長、田中英壽理事長・校友会長、徳山龍明学部長から60周年を祝うご挨拶を頂きました。校友の表彰は、叙勲御祝として紫友会の石井謙二会員、農学校友会の田中耕次会員、校友会活動表彰として台湾支部の林淵煌会員の3名が表彰されました。続いて

60周年記念として活発な支部活動を行っている7支部に校友会支部旗の贈呈式を行いました。鏡割では来賓並びに学部校友会から会長、分会長が登壇し、日本大学並びに学部校友会の発展と出席者の皆様のご健勝を祈念し、中田利道学部事務局長のご発声で乾杯を行いました。その後祝



中田事務局長乾杯の首頭

電のご披露と和気藹々とした雰囲気の中で懇親がすすみ、関村具由FT会会長の拍子木による3本締めを行って盛会裡に60周年記念式典の幕をとじました。

来年の総会は別頁掲載の通り、平成22年7月10日(土)午後2時より学部本館にて開催の予定です。多数のご参加をお待ち申し上げます。



酒井総長記念講演



平成20年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計決算					
自. 平成20年4月1日 至. 平成21年3月31日					
日本大学生物資源科学部校友会 会 長 内 田 俊 太 郎					
(収入の部) (単位:円)					
科 目	20年度予算	20年度決算	差 異	摘 要	
1. 前年度繰越金	4,577,164	4,577,164	0		
2. 会 費	45,282,000	45,327,000	△45,000		
1)準会員還付金	45,078,000	45,060,000	18,000	⑥6,000×7,510名本部より還付(73名増)	
2)旧準会員入会金	0	0	0		
3)正会員還付金	204,000	267,000	△63,000	⑥3,000×89名本部より還付(21名増)	
3. 会費会費・祝金等	1,000,000	1,015,000	△15,000	総会・懇親会の会費、祝金、その他寄付金	
4. 雑 収 入	40,000	91,248	△51,248	定期・普通預金利息、その他	
5. 基金取崩し繰入金	4,000,836	0	4,000,836	準会員対応の高、基金取崩しに収入に繰入	
収 入 合 計	54,900,000	51,010,412	3,889,588		
(支出の部) (単位:円)					
科 目	20年度予算	20年度決算	差 異	摘 要	
1. 分会交付金	22,539,000	22,770,000	△231,000	12分会への還付金等の配付(77名増)	
1)準 会 員	22,539,000	22,770,000	△231,000	⑥3,000×7,590名	
2)旧 準 会 員	0	0	0		
2. 経 常 費	10,800,000	12,683,942	△1,883,942		
1)人 件 費	3,500,000	3,672,000	△172,000	事務局(人教)人件費(人教)増(15名増)	
2)本部分担金	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部負担金、役員会費等	
3)事務局運営費	800,000	1,008,131	△208,131	事務局(事務局)運営費(事務局)増(15名増)	
4)通 信 費	2,868,000	2,449,006	418,994	会費等費200万円分補助、切手宅電代他	
5)会 合 費	1,000,000	1,668,596	△668,596	会費会費	
6)交 際 費	600,000	1,128,034	△528,034	分会等懇親会出席祝金、酒井総長記念品他	
7)交 通 費	1,500,000	2,222,670	△722,670	事務局交通費、3委員会以外の運営補助費等	
8)手 数 料	62,000	65,505	△3,505	銀行振込み手数料等	
3. 事 業 費	18,075,000	10,935,710	7,139,290		
1)総 会 費	1,500,000	1,661,618	△161,618	総会・懇親会開催費用等	
2)広 報 費	1,600,000	1,432,200	167,800	会報61号・HP作成費	
3)総務委員会運営費	150,000	49,906	100,094		
4)財務委員会運営費	150,000	40,730	109,270		
5)企画委員会運営費	150,000	0	150,000		
6)広報委員会運営費	150,000	77,660	72,340		
7)記念事業費	500,000	100,000	400,000	高知県支部20周年記念事業支援	
7)名簿管理費	0	0	0		
8)準会員対応費	10,525,000	7,014,200	3,510,800	奨学金等寄附(学部協議不調未使用350万)	
9)会長賞記念品	400,000	110,700	289,300	校友会会長賞、表彰記念品他(今年度は2名)	
10)箱根駅伝対応費	600,000	348,032	251,968	本部特別寄付金30万は無し。	
11)基金積立金繰入れ	0	0	0		
12)60周年記念準備費	2,500,000	100,664	2,399,336	60周年記念事業関係費、事前の積み立て金等発生せず。	
4. 予 備 費	3,486,000	0	3,486,000		
当期支出合計	54,900,000	46,389,652	8,510,348		
5. 次年度繰越金	0	4,620,760	△4,620,760		
支 出 合 計	54,900,000	51,010,412	3,889,588		

注)企画委員会と組織委員会は今期新たに組織された委員会であり、予算化されていなかったの、その経費は会費から支出した。

注)企画委員会と組織委員会は今年新たに組織された委員会であり、予算化されていなかったため、その経費は会費から支出した。

平成21年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計予算					
自. 平成21年4月1日 至. 平成22年3月31日					
日本大学生物資源科学部校友会 会 長 内 田 俊 太 郎					
(収入の部)		(単位:円)			
科 目	21年度予算	20年度決算	差 異	摘 要	
1. 前年度繰越金	4,620,760	4,577,164	43,596		
2. 会 費	45,330,000	45,327,000	3,000		
1)準会員還付金	45,060,000	45,060,000	0	⑥6,000×7,510名(還付金の予算額)増(7,519名)	
2)旧準会員入会金	0	0	0		
3)正会員還付金	270,000	267,000	3,000	⑥3,000×90名(還付金の予算額)	
3. 会費会費・祝金等	1,900,000	1,015,000	885,000	総会・懇親会の会費祝金(190万)、その他	
4. 雑 収 入	89,240	91,248	△2,008	預金利息等	
5. 基金取崩し繰入金	13,000,000	0	13,000,000	60周年記念事業費(102万)、他経費(10万、20万、繰入)	
収 入 合 計	64,940,000	51,010,412	13,929,588		
(支出の部)		(単位:円)			
科 目	21年度予算	20年度決算	差 異	摘 要	
1. 分会交付金	22,530,000	22,770,000	△240,000	12分会配付金	
1)準 会 員	22,530,000	22,770,000	△240,000	⑥3,000×7,510名(大学院分)増(7,519名)	
2)旧 準 会 員	0	0	0		
2. 経 常 費	12,755,000	12,683,942	71,058		
1)人 件 費	3,700,000	3,672,000	28,000	事務局員給与	
2)本部分担金	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部役員会費	
3)事務局運営費	970,000	1,008,131	△38,131	事務局(他事務局)20万、会報15万、通信費4万	
4)通 信 費	2,540,000	2,449,006	90,994	会報発送費補助、会議案内切手代他	
5)会 合 費	1,600,000	1,668,596	△68,596	幹事会、執行役員会、各委員会等(役員会除く)	
6)交 際 費	1,010,000	1,128,034	△118,034	分会、支部、他学部等祝金他	
7)交 通 費	2,400,000	2,222,670	177,330	大田原出張費、事務局交通費、委員会(運営補助費)	
8)手 数 料	65,000	65,505	△505	銀行振込み手数料等	
3. 事 業 費	27,225,000	10,935,710	16,289,290		
1)総 会 費	6,800,000	1,661,618	5,138,382	60周年記念総会・懇親会開催費用(300万、会報150万)	
2)広 報 費	1,300,000	1,432,200	△132,200	会報61号・HP作成費	
3)総務委員会運営費	150,000	49,906	100,094		
4)財務委員会運営費	150,000	40,730	109,270		
5)企画委員会運営費	150,000	0	150,000		
6)広報委員会運営費	150,000	77,660	72,340		
7)組織委員会運営費	150,000	0	150,000		
8)記念事業費	605,000	100,000	505,000	支部会報40万、支部記念事業補助	
9)名簿管理費	0	0	0		
10)準会員対応費	11,520,000	7,014,200	4,505,800	奨学金500万、奨学金返還500万、奨学金、ボランティア代、	
11)会長賞記念品	100,000	110,700	△10,700	校友会会長賞、表彰記念品他	
12)スポンサー振替対応費	300,000	0	300,000	校友会スポンサー振替対応費(会費)増(10万)	
13)箱根駅伝対応	700,000	348,032	351,968	箱根駅伝(箱根駅伝)関係費、箱根駅伝、箱根駅伝	
14)基金積立金繰入れ	5,000,000	0	5,000,000	準会員支援基金新設・繰入れ	
15)60周年記念準備費	150,000	100,664	49,336	実行委員会費用	
4. 予 備 費	2,430,000	0	2,430,000		
当期支出合計	64,940,000	46,389,652	18,550,348		
5. 次年度繰越金	0	4,620,760	△4,620,760		
支 出 合 計	64,940,000	51,010,412	13,929,588		



農 学 校 友 会

◇植物資源科学科◇

連絡先 作物学研究室
0466-84-3502 事務局 藤井 秀昭
E-mail: fujiaki@brs.nihon-u.ac.jp

平成21年度農学校友会 総会・懇親会開催



平成21年度総会

平成21年度農学校友会総会・懇親会が平成21年5月9日(土)14時より湘南キャンパス第一会議室で開催されました。平成20年度事業経過報告・同決算報告・同監査報告ならびに平成21年度事業計画案・同予算案は原案通り賛成多数で承認されました。続いて農学校友会60周年記念事業準備委員会設立の趣旨説明があり承認されました。総会



黄綬褒章を受賞された
菊池久善氏のご挨拶

後、青果物の流通改善への貢献により黄綬褒章を受章された菊池久善氏(10期)が紹介されました。

同日、NUSCホールを会場として、16時より懇親会が開催されました。会長挨拶、来賓の学部校友会長、学部長挨拶のあと、黄綬褒章を受章された菊池久善氏への祝いとして、花束が贈呈されました。懇親会では、農学校友会会報で紹介された薩摩琵琶奏者高橋喜男氏(10期、琵琶名羊水)御夫妻による平家物語の一節の演奏が披露されました。

学科行事への援助

例年にならない、学科新入生歓迎会、藤桜祭、収穫祭、卒業謝恩会に対し補助金を提供しました。また、卒業生全員に記念品を贈呈しました。5月末に実施された学部行事スポーツフェスタに合わせ、校友会ロゴが印刷されたTシャツを新入生全員に贈りました。学生の頑張りにより優勝カップを手にすることができました。学科主催による就職ガイダンス特別講義を開催し、講師を上條明雄氏(19期)にお願いしました。

植物資源科学科の近況

[卒業・新入生]

昨年度は135名の学生が卒業し、社会に巣立って行きました。4月には新入生163名(男子:107名、女子56名)を迎え、本年度は総数672の学生が在籍しています。

席し懇親会が盛大に行われました。また、懇親会には紫友会平成19年度(第14回)、平成20年度(第15回)奨学生が招待され、懇親会の席上で表彰が行われました。

平成21年度第1回理事会

平成21年7月18日湘南校舎において平成21年度第1回理事会が開催されました。理事会では平成20年度事業報告、決算報告、監査報告等の審議がなされ承認されました。また平成21年度の事業計画、予算案が決定されました。

平成21年度

第16回紫友会奨学生決定

紫友会40周年記念事業の一環として発足した紫友会奨学生の第16回生9名が、同奨学生選考委員会(委員長 奥忠武学科主任)により厳正に選考され下記のように決定いたしました。

2年次 梅田千晶、小嶋涼、田口美穂
3年次 高橋佳世、田中翔吾、原愛弓
4年次 池上雄星、菊地まどか、松木崇
(敬称略)

農芸化学科・生命化学科の近況

農芸化学科は本年4月に生命化学科に名称変更しました。新しい学科への皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。生命化学科の新入生168名(男子:103名、女子:65名)を迎えました。農芸化学科の学生、計475名(男子:257名、女子:218名)と合わせ総計643名の学生が在籍しております。生物資源科学部学部長に徳山龍明教授、短期大学部次長に長谷川功教授が就任

[海外研修]

8月2日から国立中興大学(台湾)農業・自然資源学院での農・園芸研修旅行が実施され、学科学生16名が参加しました。台湾への台風直撃の影響を受け、スケジュール変更を余儀なくされましたが、熱帯・亜熱帯の農業、台湾における園芸研究の現状に関する講義、農業試験場視察、討論会などが行われ、全員に修了証が授与されました。この間、台湾の学生と本学科学生間の交流も盛んに行われました。14日には全員無事帰国しました。

[学科教員の動き]

花卉園芸学研究室の窪田聡先生が准教授に、植物病理学研究室の井村喜之先生が専任講師に昇格されました。学部の若手教員として教育・研究に大いなる活躍が期待されます。見上友香さんが4月から実習助手として着任されました。見上さんは、本学科花卉園芸学研究室出身です。



見上 友香 実習助手

[事務局より]

農学校友会ホームページが開設されています。http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~nogaku/ がご覧いただけますが、学部校友会のページからリンクを辿って入ることもできます。会員各位の近況や告知したいことなどをお知らせください。(文責:野村和成)

され活躍されております。学科主任に奥忠武教授、生物資源科学研究科応用生命科学専攻主任に有賀豊彦教授が就任されております。本年4月1日付で微生物学研究室の中川達功先生が専任講師に昇格されました。

袴田航専任講師は平成21年度海外派遣研究員として本年7月より1年間の予定でカリフォルニア州 サンディエゴにあるスクリプス研究所(ケミカルバイオロジー部門)に留学されております。

紫友会事務局より

本年度より高橋令二准教授が事務局長に就任いたしました。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。校友会活動の一環として、紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が平成20年10月に開催され微生物学研究室が優勝



しました。表彰式の後、学生、教員、紫友会会長、副会長の方々と交えて懇親会が開催されました。

また、平成21年3月にパンパシフィック横浜ベイホテル東急にて開催されました平成21年農芸化学科卒業生謝恩会に紫友会会長、副会長の方々が招待され、卒業生の方々と広く交流を深めました。(荻原 淳)

紫 友 会

◇生命化学科◇

連絡先 微生物学研究室
0466-84-3942 事務局 高橋 令二
E-mail: rejiti@brs.nihon-u.ac.jp

平成20年度 紫友会総会・懇親会開催

平成20年11月22日(土)ローズホテル横浜(横浜市、中区)にて平成20年度総会・懇親会が開催されました。総会では茂澤果会長の挨拶の後、平成19年度事業報告、決算報告、監査報告および平成20年度事業計画、予算案、役員選出、学科名称変更に伴う会則変更等審議がなされ承認されました。平成19年度第2回理事会において、次期会長(平成21年4月～)として、昭和37年卒、木嶋弘倫監事(元副会長)を選出・決定したことが報告されました。さらに茂澤果会長を名誉会長(平成21年4月～)、江刺琢磨副会長を顧問(平成21年4月～)として就任を依頼、承諾を得たことが報告されました。総会終了後、徳山学部長以下執行部の諸先生をはじめとして多数の来賓と会員が出



角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先 獣医病理学研究室
0466-84-3624 事務局長 渋谷 久
E-mail: shibuyah@brs.nihon-u.ac.jp

平成21年度角笛会総会開催

平成21年6月13日(土)、日本大学生物資源科学部10号館第4講義室において平成21年度の角笛会総会が開催されました。中川秀樹会長より挨拶があり、久松紘一議長(昭和39年卒)の進行で審議が行われました。総会では準会員の学費支援を含めた角笛会支援基金が前総会で設立されたのを踏まえ、角笛会支援基金貸与規程が提出・承認されました。また角笛会特別功労者、角笛会功労者およびANMEC支援基金受賞者が表彰されました。本館ガレリア階スエヒロにて催された懇親会には同僚校友会の来賓の方々、角笛会校友、獣医学科教員など多数参加いただき、に



平成21年度懇親会

満 喜 葉 会

◇動物資源科学科◇

連絡先 草地学研究室
0466-84-3652 事務局長 丹羽 美次
E-mail: niwa@brs.nihon-u.ac.jp

平成21年度満喜葉会

-活動経過報告-

【役員会の開催】

定例の理事会・幹事会合同の役員会は、平成21年5月23日(土)午後2時より、学部博物館2F第1会議室において開催されました。役員会は山本捷会長の挨拶から始まり、その後会長を議長として議事に移り、平成20年度事業報告、決算報告が事務局よりなされ、承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ、承認されました。続いて、平成21年度の事業計画ならびに予算案が事務局より提案され、承認されました。

【新入生歓迎会の開催】

上記理事会・幹事会合同役員会の後、午後4時より食堂棟において、恒例の動物資源科学科新入生歓迎会(新準会員152名入会)が学科・満喜葉会の協賛、学術研究部の協力のもと行われました。

学科の近況

【卒業生および新入生】

平成21年3月、176名が本学科を卒業し、新たに満喜葉会正会員の仲間入りをしました。また、本年4月に152名が動物資源科学科に入学しました。新入生の男女比は男子57名(37.5%)、女子95名(62.5%)、ここ十年來の傾向と同

ぎやかに談笑するうちに時間が流れ、盛会裏に終了しました。

獣医学科の近況

2009年度ワシントン州立大学

夏期獣医臨床研修

ワシントン州立大学夏期獣医臨床研修が7月26日から8月9日、プルマンの獣医学部で開催されました。学生34名が参加し、小動物臨床コースと馬コースが実施されました。米国の獣医専門医による実習を中心とした集中授業は参加学生に大変好評でした。また研修中に開催されたバーベキュー大会や懇親会ではワシントン州立大学の教職員や学生と親睦を深めることができ、文化交流として有意義な時間を過ごすことができました。



ワシントン研修

獣医師国家試験

第60回獣医師国家試験には、日本大学獣医学科から130名が受験し、107

様に「女性上位」が続いており、学部内で最も女子学生の比率が高い学科となっています。

【退職および新任】

塩谷正勝准教授(生産環境学研究室)が平成21年1月、遠藤克教授(動物生体機構学研究室)が平成21年3月31日付で退職されました。両先生には、永年に亘り学生の教育・研究、学科運営等にご尽力頂きました。心より感謝致します。塩谷先生には、非常勤講師として「コンパニオンアニマル論」、「家禽生産学」等を引き続き本年度も担当して頂いております。

本年4月1日付で、助手として福澤めぐみさんが採用されました。動物生殖学研究室(甲斐教授)に所属され、動物資源科学特別演習、動物生殖学実験等を担当されます。主な研究課題は「犬のトレーニングに関する研究」など、当学科では全く新しい領域となります。今後、学生指導・研究活動での益々のご活躍を期待しております。

各研究室の配置と現在の所属教員は以下の通りです。

4階：動物生体機構学

(加野浩一郎准教授)

動物育種学

(泉水直人教授、山室裕准教授)

畜産食品科学

(宮原晃義教授、増田哲也准教授)

名が合格しました。合格率82.3%(全国平均86.3%)でした。

平成20年度の卒業生のうち優等賞が大竹詩織さん、学部長賞が中川知香さん、吉岡奈緒美さん、日本獣医師会会長賞が信定世津子、角笛会賞が佐久本彩乃さんと服部宏晃さんにそれぞれ授与されました。

博士(獣医学)の学位取得者

課程博士：小林由紀氏、小林功氏、近藤 広孝氏

退職

大谷 功専任講師(獣医生理学)、鈴木 和彦助手(獣医伝染病学)がご退職されました。

人事・昇格

上地 正実准教授(獣医内科学)が教授として昇進されました。坂井 学(獣医内科学)が専任講師に昇進されました。

新任

遠矢 幸伸教授(獣医微生物学)、柳瀬 綾子(実習助手)が着任されました。(加納 壘)



遠矢 幸伸 教授



柳瀬 綾子 実習助手

動物生殖学

(甲斐藏教授、園田豊専任講師、福澤めぐみ助手)

野生動物学

(村田浩一教授、岩佐真宏准教授)

3階：草地学

(丹羽美次教授、佐伯真魚専任講師)

飼養学

(小牧弘教授、梶川博准教授)

畜産経営学

(小林信一教授)

学科主任、小泉聖一准教授)

学科事務室

(鈴木佳代実習助手、星佳織実習助手)

【その他】

本年4月1日付で、小牧弘教授(飼養学研究室)が学部付属農場長、また、宮原晃義教授(畜産食品科学研究室)が食品加工実習センター長に就かれました。

(山室 裕)



学科歓迎会にて(平成21年3月)

いもづる会

◇食品経済学科◇

◇2010年度より食品ビジネス学科に学科名称変更
連絡先 地域環境経済学研究室
0466-84-3412 事務局長代理 磯田 みゆき
E-mail:miyuki@brs.nihon-u.ac.jp

平成21年度幹事会 懇親会を開催

平成21年の幹事会および懇親会が6月6日(土)に行なわれました。幹事会は午後3時から本館10階の食品経済学科プレゼンテーションルームで、懇親会は地下1階のカフェテリアで開催されました。幹事会では平成20年度の活動報告、会計報告と、平成21年度の活動計画、予算案が承認されました。特に予算案には、昨年度の「いもづる会創立60周年」を記念して始動している現役学生に対する就職活動支援事業も承認されました。学科の活性化に向けて、卒業生と現役学生の活発な交流が行われることが大きな



平成21年度懇親会

目標として掲げられ、その事業が一昨年度からすでに開始されるとともに成果の一部が学科HPにも掲載されるなど今年も期待されるところです。また、校友会基金規定の一部改訂が承認され、来年4月から学科名称が「食品ビジネス学科」に変更されることに伴う広報活動等に対する基金の運用が可能となりました。懇親会は多数の特別会員の先生方や会員に出席頂き、学生幹事も含めて約60名の参加者により、盛大に行われました。なお、来年度の懇親会は6月5日(土)に行いますので同級会等の企画を事務局までお寄せ下さい。

学科の近況

【新入生】

今年の4月、当学科では152名(男子87名、女子65名)の新入生を迎えました。新入生の相互交流や教職員、上級生とのコミュニケーションを図ることを目的とした恒例の新入生研修会は、4月25日(土)に校内で実施しました。まずギャラリー広場でゼミ対抗の大縄跳びを行い、その後10号館第4会議室において「大学で学びたい事、学んだ事、学んで欲しい事」と題したパネルディスカッションを行いました。今年は卒業生にも参加してもらい、現役学生全学年、卒業生、教員の発言、それらに対する1年生の発言など、非常に活発な意見が数多く飛び交い、大学で一体何を学ぶのかを考える良い刺激となったようです。

その後食堂において大縄跳びの成績発表と表彰、そして昼食、ビンゴ大会、上

級生による学生生活の過ごし方のアドバイスを受けるなど、1年生にとっては大学生活のこれからを知り、友人を作るきっかけとなった一日でした。

一方、晴天の下で行われた「スポーツフェスタ2009」は5月23日(土)にグラウンドで行われました。非常に熱気の高まった応援により各種目とも大健闘し、タイ優勝記録となりましたが、最後はジャンケンで優勝の賞状を譲り、準優勝の賞状を持ち帰りました。



スポーツフェスタ2009の集合写真

【人事】

昨年9月から長期海外派遣研究員としてオランダへ1年間留学されていた宮部和幸先生が帰国されました。ここ数年、食品経済学科では海外派遣研究員として留学される先生が続いておりますが、多くの海外経験が学科の研究・教育に反映されていくことでしょう。最後に計報のお知らせです。現役教員の小野田昌彦先生が本年7月に逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

(磯田みゆき)

あすなろ会

◇森林資源科学科◇

連絡先 森林環境保全研究室
0466-84-3674 事務局長 阿部 和時
E-mail:kazuab@brs.nihon-u.ac.jp

平成20年度理事会

平成21年度理事会を開催

平成21年1月31日(土)に平成20年度理事会、平成21年9月12日(土)には平成21年度理事会が開催されました。それぞれ、事業報告、決算報告、計画案、予算案、役員、積立金、総会の開催日時などの事項について検討されました。

平成21年度総会・懇親会を開催予定

平成21年度理事会において、平成21年度総会・懇親会を平成21年10月10日(土)に大学構内で開催することが決まりました。また、総会の後に、校友による講演会の開催が予定されています。

森林資源科学科卒業生による 就職情報交換会開催



3年次学生に就職に関する情報を与える校友
森林資源科学科卒業生による就職情報交換会

平成20年11月19日(水)に、就職を目前にひかえた3年次学生を対象に、森林資源科学科卒業生による就職情報交換会が開催されました。講師として校友30名が来訪し、約90名の学生と個別に面談して就職に臨む心構えや各業界の現況などを伝えていただきました。終了後は教員を含め校友と学生が懇親の時間を過ごし、有意義な就職情報交換会となりました。本会は、学科が開催しているものですが、あすなろ会はこれを支援しています。

教員の異動

～本江先生退職～

本江一郎先生は、昭和43年以来、一貫して学生への熱意ある指導、独創的な研究に時間を惜しむことなく携わってこれましたが、平成21年3月に退職されました。在職中には学部校友会の運営にもご努力されました。長年のご尽力に対し、敬意を表しお礼申し上げます。

◆新任

平成21年4月には、上村真由子助手、杉浦克明助手、中野可菜実習助手が着任されました。

実習あれこれ

■アメリカ合衆国へ

アメリカ西海岸研修が、ワシントン大学を拠点として、平成21年3月12日から21日の間に実施され、学生11名が参加しました。阿部(和)教授、吉岡講師、松本副手の引率でレッドウッド国立公園などを見学しました。



レッドウッドの
巨木/レッドウッド国立公園にて
(松本副手撮影)

■北海道・八雲演習林へ

北方林実習が、平成21年8月24日から21日の間に八雲演習林で実施され、学生31名が参加しました。井上教授、石垣准教授、杉浦助手、中野実習助手の引率で、演習林の森林管理や製材工場などを見学しました。



八雲演習林の森林管理見学で
林業機械とともに(中野実習助手撮影)
皆様へ

校友の皆様の活動の様子をあすなろ会あてにお知らせください。どのようなことでも結構です。当誌に掲載させていただきます。よろしくお願いいたします。

(鍛代邦夫)



桜 水 会

◇海洋生物資源科学科◇

連絡先 海洋生物機能応用学研究室
0466-84-3684 事務局長 松宮 政弘
E-mail: matsumiya@brs.nihon-u.ac.jp

平成21年度桜水会 総会・懇親会・学術講演会を開催



平成21年度 桜水会懇親会

平成21年6月20日(土)2時より湘南キャンパス10号館で平成21年度理事会・代議員会および総会が開催され、吉田良之会長の挨拶の後、平成20年度事業報告、決算報告、監査報告があり、平成21年度事業計画案、予算案、桜水会の会則および規定の一部変更、ならびに香川県支部の設立などが審議され、全て承認されました。続いて午後3時半より大越徹夫氏(21期、埼玉県農林総合研究センター水産研究所長)による記念講演会「演題：魚の眼でみた水産試験場」が開催されました。さらに午後5時より食堂棟3階NUホールで懇親会が盛大に

開催されました。懇親会には会員・学科教員計66名に加え、準会員である4年次在学生数十名も参加し、出席した会員と若い在学生との間で交流を深めることができ、盛大かつ和やかな雰囲気にも包まれた会となりました。また、香川県から駆けつけた会員から香川県支部の活動等が紹介されました。

学科・準会員への支援

桜水会では、海洋生物資源科学科広報用パンフレットの作成、学科受験生対策勉強会への補助、在学生の学会参加費の補助、卒業時の記念品の贈答、1年次の必修科目である「海洋基礎実習」と「海洋生物資源科学概論」、ならびに3年次の科目である「特別講義」への支援協力を実施してきました。

海洋生物資源科学科の近況

【新入生】海洋生物資源科学科は本年4月に150名(男子106名、女子44名)の新入生を迎えました。新入生オリエンテーションとして4月25日(土)に鵠沼海岸で地曳き網と新江ノ島水族館見学を行いました。当日は生憎の雨模様でしたが、教員・学生が皆雨合羽を着て網を曳き、またアジを3枚に下ろす調理実習も実施しました。前期に各教員が10名前後の新入生を担当して行う少人数制のセミナー形式の授業(フレッシュマン・セミナー)を行いました。

【専修コース・広域教育コースならびに食品衛生コース】海洋生物資源科学科では、2年次の3月中旬に「専修コース」と「広域教育コース」のいずれかのコースを選択する2コース制をとっています。また、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格取得コースである「食品衛生コース」も設定しています。

【人事】学科主任

が本年4月より、谷内 透教授から吉原 喜好教授に交代となりました。海洋生物資源生産学研究室の谷内 透教授が本年8月に定年退職されました。先生は、平成12年4月に東京大学よりご着任後、平成19～20年度には学科主任を務められ、学科のために多大なご尽力をされました。また、1年間学科事務を担当された井口(旧姓 北原) 三代臨時職員が本年3月に本学科を卒業された高野美穂実習助手が着任されました。



高野美穂 実習助手

桜水会事務局より

平成21年7月より桜水会事務局長は杉田治男教授より松宮政弘教授に交代しました。桜水会々員の皆様の近況や同期会等の活動の様子を事務局までお知らせください。(荒 功一)

工 学 会

◇生物環境工学科◇

連絡先 環境土木施設工学科研究室
0466-84-3828 事務局長 青木 正雄
E-mail: m--aoki@brs.nihon-u.ac.jp

会員・準会員との交流・情報交換を通じて更なる活性化をめざす

酒川和男会長を中心とする第16期体制のもと、会の目的である「会員の親睦」と「母校の発展」を実現すべく、学科や準会員(学生)との密接な関係構築に向けた数々の協力・支援活動に加え、工学会ホームページ(<http://www.bae-kougakukai.org/>)の充実など会員への情報発信を展開しています。

平成21年度総会

講演会・懇親会開催のお知らせ

平成21年11月28日(土)に21年度の工学会総会・講演会・懇親会の開催を予定しています。講演会では、昨年度に本学本学科の教授を退職された世良田和寛先生および、学科卒業生を講師にお招きし、懇親会では在学生(準会員)との交流も予定しております。ご多忙のところ恐縮ではありますが、一人でも多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

日時：平成21年11月28日(土) 14:00～
会場：日本大学生物資源科学部
次第：総会：14:00～15:30 10号館1013講義室
講演：15:45～17:30 10号館1016講義室
講師：世良田和寛氏(元日本大学教授・S38卒)
・鈴木 昌二氏(世田谷区議員・S49卒)
懇親：18:00～ 食堂棟3階
会費：4,000円(当日徴収)

生物環境工学科

パンフレット・リニューアル

工学会では、毎年、学科・在学生(準会員)への協力・支援活動として、スポーツフェスタでの学科Tシャツや卒業時の記念品の贈呈等を実施しています。今年は、4年ぶりとなる学科パンフレットのリニューアルに経済支援をおこない、完成となりました。新しいパンフレットは、昨今の就職事情配慮し、本学科で学ぶことで、学科の特徴でもある多種の資格取得や就職先など、出口教育をコンセプトとし、デザイン化したものとなりました。



リンゴの樹と実をイメージして、学びと就職を表現
学科の動向

【学科の体制】本学科の体制(2009年9月現在)は、8研究室+学会事務局、19名の教員による教育・研究体制をとっています(表)。平成8年の農業工学科からの名称変更にもない、校友の皆さんには馴染みの薄い研究室名になっているかもしれませんが、構成教員名をご覧になり、かつてご所属の研究室を確認ください。ホームページ(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~bae/>)にも動向や各研究室の活動等を掲載しています。こちらでもあわせてご参照ください。なお、学科パンフレットもHPからのダウンロードが可能です。

【学科棟リニューアル後の経過】近年の重要な話題である「低炭素型社会」に対する一つの答えとして、ソーラーパネルや壁面・屋上緑化施設を設置しました。4年を経過し、エントランスホールの実なる植物による壁面緑化・屋上菜園は、校内を歩き交う人やオープンキャンパスに訪れる高校生の目を奪う注目の学内施設です。

工学会総会、出張等で近くにお寄りの際、あるいは卒業生でお待ち合せて、生物環境工学科(7号館)をお訪ねください。そして近況や青春の思い出を教員や在学生(準会員)とともに語らしましょう。楽しみにお待ちしております。された学科棟(7号館)



表 生物環境工学科の研究室・教員の体制

研究室名	構成教員名	研究室名	構成教員名
●地域環境保全学	河野英一：教授 笹田勝寛：専任講師 野馬孝治：助手	●生物資源・プロセス工学	瀬尾康久：教授 富田勲雄：専任講師
●地域環境計画	富田公三：専任講師	●生物生産・システム工学	宮本宮本：准教授 内ヶ崎万蔵：専任講師
●水資源環境工学	石川重雄：教授 長坂貞郎：専任講師	●建築・地域共生デザイン	糸長浩司：教授 栗原伸治：准教授 藤沢直樹：専任講師
●環境土木施設工学	青木正雄：准教授 鈴木哲也：専任講師	●学科事務局	石田さちほ：実習助手 藤沢直樹：実習助手
●生物生産流通施設学	川西啓文：教授 都 甲洙：専任講師		(2009年9月現在)

【事務局より】会員の皆さまで、住所変更や改姓がございましたら、お手数ですが上記までE-mail又はお葉書にてご一報ください。(藤沢直樹・H6卒)

F T 会

◇食品生命学科◇

連絡先 食品資源研究室
0466-84-3981 事務局 竹永 章生
E-mail: takenaga@brs.nihon-u.ac.jp

F T 会活動報告

○F T 会理事会開催

F T 会理事会が平成21年4月11日午後3時より本学湘南校舎食品生命学科会議室において行われました。理事会では平成20年度事業報告および会計収支決算が報告され、承認されました。さらに、平成21年度事業計画案および会計収支予算に関して報告が行われ、承認されました。

○平成21年度 F T 会

総会および懇親会の開催

平成21年度F T 会総会が平成21年6月13日(土)に京王プラザホテル(新宿)において開催されました。総会には関村具由会長(第1期生)の挨拶で開会し、平成20年度事業報告および会計収支決



平成21年度懇親会

算が報告され、承認されました。さらに、平成21年度事業計画案および会計収支予算に関して報告が行われ、承認されました。懇親会は近年になく、147名と、多くの若い世代の出席となり、至る所で恩師、友人との再会に盛り上がっておりました。

○準会員(在学生)への活動

平成20年11月にF T 会補助のもと、3年生と教員との懇親会と4年生のボーリング大会が盛大に行われました。平成21年3月25日には第44期学生の中から学業および人物優秀な学生へ贈られるF T 会長賞を授与いたしました。平成20年度は大橋恵美さんが選ばれ、金一封が贈られました。また、4月には1年生の懇親会補助、5月には学部スポーツフェスタが行われ、参加した新入生へ飲料物を補助いたしました。



スポーツフェスタ2009
学科の近況

○学科名称変更

平成21年度4月から、学科名称が食品科学工学科から、新たに食品生命学科と変更になりました。また、学科名称変更にともない、研究室名も食品生命機能学

(旧食品機能化学)、食品生命工学(食品化学工学)、食品創成化学(食品製造工学)、食品資源利用学(食品学)、食品健康解析学(食品衛生化学)と変更されました。

○退職

平成21年3月31日付で伊藤眞吾先生(食品学研究室、旧4研)が退職されました。先生は学科創設以来、多くの学生を教育および研究指導され、本学科の発展にご尽力いただきました。今後とも、先生のご健勝をお祈りいたします。

○学会受賞

荻原博和准教授(旧5研、旧食品保蔵学、限食品微生物学研究室)が日本食品保蔵科学会第58回大会において「食肉および食肉製品の非加熱技術による微生物制御に関する研究」で日本食品保蔵科学会学会賞を受賞されました。本賞は先生の長年の研究功績が高く評価された結果で、先生も受賞を喜ぶとともに、研究に携わってきた多くの卒業生に感謝しておりました。

事務局より

会員の方々に、住所変更や改姓などがございましたら、ぜひ事務局までお知らせ下さい。また、新しくF T 会のホームページ(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/%7Eftkai/index.php>)からも各種変更届を受け付けております。

(阿部 申)

拓 友 会

◇国際地域開発学科◇

連絡先 国際経営流通研究室
0466-84-3457 事務局 早川 治
E-mail: osamu@brs.nihon-u.ac.jp

青年海外協力隊への参加状況

生物資源科学部のなかで青年海外協力隊に参加する学生割合が高いのは本学科が圧倒的に多い。今年度参加した卒業生は、鈴木昌則(ニジェール: 村落開発普及員)、堀真理子(ネパール: 村落開発普及員)、原英雄(フィリピン: 村落開発普及員)、長澤一寿(ウガンダ: 村落開発普及員)、松原有希(セネガル: 野菜栽培)、村西真典(セネガル: 野菜栽培)、寺田雄介(ベトナム: 野菜栽培)、高柳凡恵(ネパール: 土壌肥料)、杉町栄太郎(エジプト: 野菜栽培)、宮本尚輝(ウガンダ: 稲作)、安藤さよ(ブルキナファソ: 野菜栽培)と10名にのぼる。また、短期協力隊員(2ヶ月~10ヶ月)では松本俊輔(ウガンダ: 稲作)の他、現役の大学院生の伊藤雅(ウガンダ: 稲作)、4年生の鈴木智浩(ウガンダ: 稲作)、4年生の西川ななみ(ウガンダ: 病虫害)が参加した。短期協力隊員は、現役の学生が休学することなく夏休みや春休みを利用して参加できるため今後も本学科の学生の参加が増加すると見込まれる。国際協

力分野は狭くハードルが高いが、それぞれの専門分野でさらなる知識と経験を重ねて語学力を研鑽すれば、国際機関職員、JICA 専門家、コンサルタント会社、在外日本大使館などに勤務する展望がある。協力隊やNGO、大学院などで一歩ずつ努力して進んでいけば先輩たちのあとに続くであろう。(文責: 倉内)

学科主催第2回ガーナ研修

2009年2月20日から3月6日の間、学科主催の第2回ガーナ研修が実施された。ガーナ大学を拠点にアフリカの文化や社会について学んだほか、オチョレコ、アシャマン両農村での交流、また小学校訪問では折り紙などを通して明日のガーナを担う子供たちと楽しい時間を過ごした。今回の研修は参加学生にとって大きなイ



オチョレコ村の小学生たち

ンパクトとなったこと、そして研修をきっかけに得たものがこれからの学生生活に大いに生きてくるものと確信している。また、今日、誇り高く平和を維持し、安定した社会を築いているガーナの人々に触れ、これからの発展と、本学とガーナ大学との交流が益々深まることを願っている。(文責: 井上雅也)

退 任

平成21年4月、相座昭夫先生が定年退職されました。先生は昭和58年から英会話、商業英語など語学科目を担当されました。先生の温かな人柄は多くの学生から信望を集めました。先生のますますのご健勝をお祈りいたします。

昭和38年に新設された拓植学科(現国際地域開発学科)の第一期生として、昭和42年から本学科に奉職されていた長谷川勝男先生が、平成21年10月に定年退職されました。実に42年間の永きにわたり学科の発展と学生教育に情熱を注がれました。先生のますますのご健勝をお祈りいたします。

短期大学部湘南校友会

◇短期大学部生物資源学科◇

連絡先 短期大学部生物資源学科 教養・国語研究室
0466-84-3749 事務局 長 蒲原 義明
E-mail: kamohara@brs.nihon-u.ac.jp

平成21年度 総会・懇親会の開催

平成21年6月27日(土)日本大学短期大学部湘南校友会が発足して初めての総会が短期大学部棟531教室にて開催されました。在校生、卒業生に多数、参加していただき、今後、益々の発展と躍進を誓いの言葉として取り行なわれました。総会終了後、記念パーティーが本館スエヒロにて開催され、終始、和やかなムードの中執り行われました。

学科の近況

【新入生】

今年度は生物資源学科設立三年目



軽井沢ウォークラリー

を迎えて、132名(女子:60名、男子:72名)の新入生が入学してきました。4月17、18日には、新入生軽井沢研修が行われ研究室ガイダンスやウォークラリーなどを実施しました。学生と教員が一体化となり親睦が深まり図れた日々でした。5月23日に



スポーツフェスタ2009

は、NUグラウンドにてスポーツフェスタが開催されました。天候にも恵まれ、すべての競技を順調に行うことができました。リレー総合優勝、総合3位という結果を残し、大健闘でした。来年も更に上を目指して頑張ります。



大健闘で終了したスポーツフェスタ2009

【卒業生】

平成21年3月25日に103名の学生が卒業し、それぞれの道に分かれて巣立っていきました。生物資源科学部への編入77名、他大学への編入5名(静岡大学、田園調布学園大学、宇都宮大学、島根大学、東京農業大学)、専門学校3名(日本動物専門学校、町田製菓専門学校、東京テクニカル専門学校)、就職5名(自営業、アルゴラ、サンドラッグ、株式会社叙々苑、ルノアール)でした。今後の活躍に期待しています。

【事務局より】

会員の方々に住所変更や改姓がございましたら、お手数ですが上記までメールかお葉書にてご一報下さい。(松橋 明宏)

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 蛋白質科学研究室
0466-84-3700 事務局 長 司馬 肇
E-mail: chang@brs.nihon-u.ac.jp

応用生物科学科の近況

【在籍】

現在応用生物科学科の在籍学生数は606名、学年別では、4年生154名、3年生131名、2年生166名、1年生155名となっています。男女の数は、それぞれ386名と220名となっています。大学院に関しては、応用生命科学専攻に在籍する本学科の学生数は、博士前期課程38名、博士後期課程1名となっています。

【新任】

本年4月1日付で応用生物科学科に舩廣善和専任講師(生体制御科学研究室)が着任されました。教育と研究において、今後のますますのご活躍を期待しております。

【海外留学】

明石智義専任講師(生体分子科学研究室)は9月初旬にアメリカ合衆国のアリゾナ大学へ赴きました。留

学期間は1年間です。良い研究成果が得られますよう頑張ってください。期待しております。

協賛活動

平成21年4月30日(木)に、学生食堂3階において、新入生歓迎会が盛大に行われました。学科の教員と100名以上の新入生が参加しました。お酒はありませんでしたが、参加者は皆、楽しくジャンケンゲームを行ったり、懇談したり(写真1)して、相互の親睦を深めていました。

昨年同様、T-シャツを新入生に送



舩廣先生(左側)と新入生(写真1)

りました。今年のデザインは黒の背景に白い矢に射抜かれたピンクのハートマークが左胸にあり、背中に学生達の愛称と教員の名がプリントされていました。スポーツフェスタでは、学生、教員ともにこのT-シャツを着て、競技や応援を行っていました(写真2)。



スポーツフェスタの集合写真(写真2)

恒例となった学部4年生、大学院生、教員による研究室対抗球技大会は、10月に開催される予定であります。いい汗を流し、大いに親睦を深めていただきたいと思います。

事務局より

本年度は応用生物科学科校友会の総会・懇親会を開催する年となっております。会員の皆様方には10月中旬に総会・懇親会開催に関するアンケートをお送りする予定でございます。ご協力をお願い致します。

事務局では会員の皆様方からのご意見、ご要望、ご提案をお待ち致しております。ご一報くださいますよう、お願い致します。

最後に、住所変更、改姓、お問合せ等ございましたら、お手数ですが、事務局までご連絡ください。

(司馬 肇)

支部だより

宮城県支部の近況

連絡先
〒981-3131 仙台市泉区七北田字町31番地
小野 隆事務所 支部長 小野 隆
TEL.022-372-4637 FAX.022-374-8844
E-mail:takashi@enax.net



9月12日(土)、杜の都の初秋の風物詩「第19回定禅寺ストリートジャズフェスティバル in 仙台」が開幕。ケヤキ並木の下や街角に設けた46の野外ステージで721組がジャズやロックを演奏し、街中にビッグバンドの音色やビート、アコースティックバンドの旋律が溢れる中、「平成21年度(第6回)総会・懇親会」を開催いたしました。ご来賓に石川稔矩(農学S40)校友会副会長、中沢幸男(法学S40)オール日大校友会宮城県支部長、小松文嗣(獣医S39)山形県支部長をお迎えし、村山進(農業経済S31・校友会前事務局長)、高坂鉄雄(農業経済S31・元教授・神奈川県支部前会長)さんのご臨席。農業経済S31田中董(神奈川県支部)、大谷勝利(北海道)さん。油川洋(法院/新聞S45・尚絅学院大教授)さんにご参加いただいた、例年ではない盛大な総会・懇親会でした。総会では全案原案通りご承認いただき、会員相互の親睦・融和、母校の興隆発展のため校友会・各支部との連携・交流を深め、会員の勧誘に一層努力すること、思い出の地(下



千葉副支部長の指揮で 更に親交を深めた牛もつ鍋を
校歌斉唱 囲んで二次会場で
馬・穴(馬堀)を訪ねるツアーの実現、
第27回全日本大学女子駅伝大会・10月
25日(日)に出場(9月27日決定)する
母校選手を地元校友会として、応援旗・
人員を総動員して道沿応援に臨むことを
確認しました。また、高坂先生に「日本
大学120年のあゆみと校友会」、石川先
生に「校友会活動の現状と展望」の演題
でご講演いただきましたが、時間の関係
で「120年の歴史」、「校友会の現状・
展望」をそれぞれ15分でお話下さいと
お願いした失礼をお詫びいたし、ご寄贈
いただいた「支部会旗」のもと全員で記
念撮影しました。懇親会では、一人一言
「近況報告」をいただくなど、時間の経
過も忘れて和気霽々とした懇談の中であ
りましたが、次回の再会を約束し、千葉
達(畜産S43・副支部長)の指揮のもと
全員で校歌を斉唱して、盛会の中にお開
きとなり、第二会場に場所を移して更に
親交を深めました。(事務局長 櫻田昇)

山形県支部の近況

連絡先
〒990-2433 山形市鳥居が丘4-55
日本大学山形高等学校 池田 卓郎
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail:t_kedaka@ymgt.hs.nihon-u.ac.jp



酒井先生を囲んでの懐かしいひととき
平成19年度総会を準備していたが、会場の都合により、使用できなくなり中止をした。今回は活動内容を紹介いたします。1月に役員会を兼ねて総会の案内発行。2月に総会一泊で生物資源学部より各学科の先生を派遣していただき講演会そして学部校友会役員より現況報告そして近県の生物資源校友会、本県の日本大学各学部校友会(法、文理、経済、工科系、芸術、医、歯)、日本大学山形高等学校校長をお招きしての懇親会。日本大学校友会山形県支部役員会への参加。近県生物資源校友会への参加。日本大学校友会山形県支部総会への参加。本県の日本大学各学部校友会総会への参加。年度の最後に忘年会を兼ねての役員会。年間の主な行事は小松文嗣(獣医)支部長、小林憲一(農工)、植松恒美(農化)副支部長新聞博夫(獣医)幹事長、事務局を中心に560名の会員で楽しんでいます。(事務局長 池田卓郎)

山梨県支部の近況

連絡先
〒405-0044 山梨県山梨市市川1403
支部長 古屋 勝美
TEL&FAX.0553-22-5183
E-mail:furukathu1211@fruits.jp



定期総会の開催

平成20年11月29日(土曜日)石和温泉ホテル「慶山」において、県支部総会と懇親会を開催しました。学部校友会より来賓として副会長赤塚敏夫氏(あすなろ会会長)事務局長村山進氏(いもづる会名誉会長)のご臨席を賜り、県内各地から会員の参加の中で挙行いたしました。総会議事は、議長越石氏の進行もとで、支部活動報告、支部会計報告は原案とおり決定となりました。支部規約改正は、現況を踏まえ実態に合うよう修正し、県支部名は新旧学部併記から生物資源科学部に改正されました。

また、来賓各氏から祝辞と発展飛躍する大学の近況や校友会の活動報告をいただき閉会となりました。

引き続き、懇親会が開催され、初参加の会員もいましたが、スピーチやカラオケと進み、時間を忘れ楽しいひとときを過ごしました。最後に、森鍵氏のエールで大学校歌を声高らかに歌い、次回の再会を誓い散会しました。

訃報

山梨県支部運営について前支部長として活躍され、引き続き支部相談役としてご尽力いただいた小越昭雄氏は、平成21年9月15日(80歳)ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

高知県支部の近況

連絡先 〒780-0084 高知県高知市南御座12-3
高知県支部事務局 前川 卓也
TEL.088-880-0538
E-mail:maekawa@mb.inforoma.or.jp
※連絡先:高知市南御座9-19から高知市南御座12-3に変更となっております。



支部総会を開催

去る8月29日(土)高知市の料亭「葉山」において、第21回高知県支部総会を開催いたしました。ご来賓の内田学部校友会会長、花澤学部次長、茂澤学部校友会顧問、特別会員の高坂元教授、支部古谷顧問と同窓の都木守男氏を県内各地から集まった校友が囲み18名の出席者となりました。

まず森田支部長より、開会が宣言され先日の本部60周年記念総会の報告、支部活動活性化の方針についてお話がありました。続いて内田学部校友会会長より、今後の学部校友会の課題や方針等についてご挨拶いただきました。会員名簿の整備については、当支部でも懸案となっており、さまざまな規制、ハードルはあろうと存じますが是非実現していただきたいと感じました。花澤学部次長からは学部・学科の近況・将来の学部及び校友会を担う新入生の動向のお話、茂澤顧問からは「内田会長のもとに校友会のさらなる発展を」というお話、高坂先生からは「日本大学120年のあゆみと校友会活動(先日発足した天台親善桜蘭会について)」、都木氏よりご祝辞をそれぞれいただき、議事に入りました。

平成20年度事業および収支決算報告、平成21年度活動方針および予算が原案通り承認された後、茂澤顧問に、先日まで訪問された中国で感じられたことについてご講演をいただいて、懇親会にうつりました。賑やかにあちこちで笑いの輪が出来、最後に全員で校歌を斉唱、岡林先輩の音頭で日本大学にエールを送ってお開きとなりました。(前川卓也)

神奈川県支部の近況

連絡先 〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866
事務局長 小牧 弘
TEL&FAX.0466-84-3659
E-mail:komaki@brs.nihon-u.ac.jp komaki.hiroshi@nihon-u.ac.jp

神奈川県支部活動報告

本会の精神的な拠りどころとして秋元美治会長は「年に一度の酒の席だけの集いだけではなく、共通の話題としての目的と農作業の体験を通して喜び・満足感を農場で収穫できた農産物による『収穫祭』という形で体現したい」と構想を煮詰めてきた。

小牧弘会員は本学部の教授を務め、今年から農場長を拝命している。さらに本会事務局長も兼務しており、事務局長が常々言及している「神奈川県支部会員の活動拠点を構築」が具現化された。畑作業の大きな牽引力として畑の管理と技術指導は鈴木明夫会員(元本学部農産部勤務)に全面的に依存をしている。ここで強調することは、土地、

(次頁へ続く)

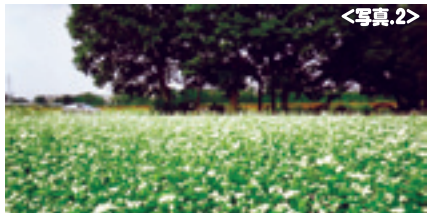
(前頁より)

施設、資材、人手はあっても農産物を育成する技術と知識が今の所皆無の会員集団にすぎない。同会員の献身的な努力と尽力に感謝する。

本会の活動の推移を見ると、校友会の会員並びに家族の皆さんが、学部より畑地(写真1)を借用して、平成20年度には、枝豆、里芋、ネギ、大根、ピーマン、ジャガイモ、サツマ



イモ等を取穫、さらに約240坪の畑地(写真2)(権丈敬次会員・元国際地域開発学科教員の開墾地)にソバを植え付けて、無事に収穫する事ができた。これらの食材を調理して収穫祭を開催する事が実現した。今年も同じく農産物植え付け、新たにほうれん草とトウモロコシを加えることになった。これらの収穫物



を仕分け保管する施設と場所の確保は、植物資源科学科・藤井秀昭先生のハウスを好意的に使用させて頂いていたが、今年春に前向きに先行投資(資材一式で約40万円)を行い、

校 友 だ よ り

新潟県農業総合研究所

アグリ・フーズバイオ研究部

近藤 正剛 平成10年農学科
(現：植物資源科学科) 卒業



流れる月日は早いものです。楽しかった大学生活が卒業して「あっ」という間に約10年もの月日が過ぎ去りました。

卒業2ヵ月後に生まれた長女は、今年で小学校5年生の11才です。彼女は、あと7年で18才となるわけで、いつの間にか子供のほうが大学生に近い存在になっていることに気がきました。そんな彼女に「将来、大学生になりたい?」と尋ねると、「うん、食堂のおいしい大学がいい!」と、予期せぬトンチンカンな回答。妻は、「思いのほか、六会の某大学かもね。蛙の子は蛙、鳶は鳶を生まない。」と笑っていました。

同級生だった妻とは、相変わらず口喧嘩(一方的に怒られることが多い)をすることが多いのですが、2人の娘にも恵まれ、あの頃よりも、ずいぶん落ち着いた生活を送れているように思えます。今の生活があるのは、卒業までにお世話になった先生や先輩、善き同級生や後輩達のおかげです。

在学時は、遺伝育種研究室に在籍し、イネの組織培養が研究のテーマでしたが、就職しても、その頃と大差なく、ユリの培養細胞をいじくり

約14坪の自前の多用途ビニールハウス(写真3)を会員、院生、学生の奉仕活動によって約2週間で竣工にこぎつけた。



世良田和寛支部長代行は本会の先行きの運営費調達をどの様な形でプールしていくかが重要なポイントであると指摘する。これら一連のビニールハウス組立て作業を通して、院生、学生諸君が本会の趣旨を理解されて、積極的に参加することが常態化してきた。

今後は学科を問わず諸君が我々OB&OGと共に太陽の輝きの下で海風の混じった空気の良い湘南の台地で、精神的・肉体的両面とも、大いにリフレッシュして貰いたい。

(文責・稗貫 峻)

第26回横浜港カッターレース 並びにカッター部OB、OG総会が行われる!!

6月14日の日曜日、横浜山下公園前面水域においてカッターレースが行われました。このレースは横浜港に初代日本丸が来るのを記念してスタートしたものです。回を重ねること、今回で26回目となりました。カッターレースには200チームが参加、我々OBより4チーム、現役より1チームが参加いたしました。応援も陸からは校友会より借りたピンクの旗で応援、海上からは桜水会の吉田会長が日大の旗をたて船より応援をしていただきました。OBチームは残

回す日々を送っています。「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花。」この和歌は、美人をたとえた歌として有名なのですが、僕もいつか、大学での学びを活かして、人間ではなく、美しい植物の育種を実現したいと精進しています。

フィルターの

バリデーション

山本 明典 (平成17年度
大学院生物資源生産科学専
攻博士前期過程修了)

日本ミリポア(株)に入社し、平成21年で4年目になります。日本ミリポア(株)という社名をご存じない方でも、Milli-Q水(超純水)と言えばご存知の方も多いのではないのでしょうか。Milli-Q水は精製度の高さから実験や分析等、多くの場面で使用されています。日本ミリポア(株)はMilli-Q製造装置をはじめ、ライフサイエンスの分野で幅広く数多くの製品を提供している会社です。

私は入社当時、アクセスサービスラボに配属され、主に製薬企業から委託された「ろ過滅菌フィルターのバリデーション試験」を行っていました。この試験は製薬企業が無菌操作法を用いて無菌医薬品(注射剤、点眼薬等)を製造する場合に、事前に実施し確認しなければならない項目の一つです。

現在は営業に異動し、製薬・食品・飲料業界で品質管理の現場で使われる分析フィルター等の製品販売を担当しています。身近なところでは、清涼飲料水の出荷判定で使用されています。多くの製品では、製造ロット毎に抜き取りで全量ろ過検査を行い、製品中に菌がいらないことを確認してから出荷されています。

入社当時から現在に至るまで、学生時代に習得した事(研究室で学んだ実験技術、実験データの纏め方、プレゼンテーション資料の作成・



第26回横浜港カッターレース

念ながら準決勝には残れませんでした。OBの最年長チームは初回より参加しており、第20回で準優勝の記録を持っています。現役チームのタイムは良かったのですがゴールでルール違反があり失格残念でした。その後、中華街近くのロイヤルホールヨコハマにおいて、カッター部OB、OG総会が行われました。会長挨拶、昨年度の活動報告、



カッター部OB、OG集合写真

会計報告、本年度の活動予定を発表その後堅い話はそこそこに、応援に同行されたご家族、少し遅れて現役も交えて懇親会が行われ十代から六十代迄の幅広い年齢層がワイワイと昔話やら四方山話に花が咲き、カッター部の歴史の古さを思わせるものがありました。最後に、日大校歌、水上応援歌、日大節に全員手拍子、盛況のうちに今年の会を終了しました。

(昭和44年水産学科卒 原 博隆)

発表等)が役立っていますし、必要な事となっています。

また、今の仕事の醍醐味は、何と言っても安全な製品が市場に流通するためのお手伝いできている点です。品質管理の現場で使われる製品は、一般消費者の安全性から見れば、必要不可欠なものです。そういった場面での縁の下力持的な役割が果たせる事を誇りに思っています。

日本ミリポア(株)をご存じない方も、どんな会社だろうと気になった方は、これを機には是非HPを覗いてみてください。何かしらのお役にたてる製品を取り扱っておりますので。

佐久本 彩乃 平成21年獣医学科卒業



前列の向かって一番左が私(佐久本さん)です。隣は院長で埼玉県獣医師会会長の高橋 三男先生です。校友会の皆様方のご支援、また、大学の先生方のご指導のおかげで、獣医師国家試験に合格することができ、晴れて卒業を迎えることができました。私は、小動物臨床の道をすすみ、現在、埼玉県の動物病院に勤務しております。私の勤務している動物病院には、日本大学卒業の獣医師もおり、先輩獣医師の皆様にも面倒を見ていただき、勉強の日々です。これからも獣医師として、継続して自己研鑽を積むよう努力していきたいです。まだ獣医師として、スタートラインに立ったばかりで、今後多くのことを経験していくと思いますが、その際は、獣医学、また人生の先輩である先輩方のアドバイスを賜りたく存じます。

(校友だよりは次頁に続きます。)

校 友 だ よ り

学生時代の思い出

中洲 絵美子 平成18年食品経済学科卒業
「大学時代の思い出」と言われて一番に思い出するのは部活動です。

私は陸上部に所属しており、多くの時間を競技場で過ごしました。

同期の仲間、すてきな先輩方・後輩達に恵まれ、陸上を通じて多くのことを教えていただき、少しではありますが成長することができたと思っています。いつも温かい目で見守ってくださった陸上部顧問であらせられます稲垣先生には感謝の気持ちで一杯です。今日の自分があるのも、多くの方々に出会い支えられたからだと思います。

私にとって大学生活は、社会に出るまでの貴重な時期であり、勉強面では後悔することは多々ありましたが、その時間を日本大学生物資源の自然が多く、美しいキャンパスの中で過ごせたことを幸に思っております。

水産学科を卒業して

鎌田 一彦 昭和59年水産学科卒業
私は昭和59年に卒業し、水産練製品メーカーの紀文に入社しました。入社当初は大学で学んだ知識を活かして製造・開発希望でしたが、

研修中に営業職に幅広いスキルと活動力を感じ希望で営業配属となりました。仕事は取引先との商品商談が中心ですが、製造・物流・商品開発・マーケティング・品質衛生とすべての部署との連携と決断が重要です。今は広域量販店を担当し業務に忙殺中ですが、なんとか仕事と家庭と趣味のバランスをとっています。

昨年、原料すり身が異常な高騰となり、水産練製品業界は商品規格や価格変更、安定供給の確保など激動の年となりました。原因は北米のすけとうだらの漁獲枠が2年で半減したことに加え、欧米・アジアの魚肉需要が拡大したためです。思い起こせば私が在学中の昭和58年に日本は海洋法に署名し200海里時代が始まり、翌年に商業捕鯨が禁止され、海は水産資源の管理と環境保護へと変化していました。私は営業一筋25年の経歴ですが、今も水産通でありたく積極的な情報を集めています。また、食品メーカーですから安心・安全とコンプライアンスは当然として、今後も海の恵みに感謝し、お客様の豊かな食生活に貢献する仕事をして行きたいと思っています。

最後に校友会各位のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



佐藤 彰洋 平成17年
生物環境工学科卒業 (42期)

千葉県に入社し、香取農林振興センターで特定農業用管水路等特別対策事業を担当しています。一緒にこの事業を担当している先輩は同じ研究室出身の頼れる方で、部長も日本大学農獣医学部農工学科の大先輩です。今年の4月末に異動となり、新たな場所・新たな仕事で不慣れなこともたくさんありますが、日本大学の諸先輩方に支えていただいています。60周年を迎える日本大学だからこそ、このような幅広い先輩方に恵まれているのだと思います。これからもこのようなつながりを大切な財産としたいと思います。60年、おめでとうございます。



打合せ風景

◆校友会事務局からのお知らせ◆

【学部祭】

10月24日(土)～26日(月)までの3日間、本年も藤沢・湘南校舎に於いて藤桜祭が開催されます。今年のテーマは「ゆめ」一心に咲かそう夢の花です。同時に24、25日はオープンキャンパスも開催されます。今年は校友会では初めて教室を借り、校友会60周年を迎えた年を記念して展示を行います。是非、会場である1号館3階131教室に足をお運び下さい。24日はメインコンサートとオープニングセレモニー、25日には野菜の即売会やフリーマーケット、夜は花火大会が、26日はビンゴ大会や夜後祭が開かれます。勿論、学生達の展示発表も楽しみです。是非お立ち寄り下さい。

【箱根駅伝応援】

毎年恒例の読売新聞社主催、箱根駅伝は1月2日(土)、3日(日)の2日間開催されます。学部校友会では例年、藤沢遊行寺坂上でピンクの

校友会幟を沢山たてて応援しています。共に熱い声援を送りませんか!? 神奈川スバルショールーム(焼肉ヨンドン)前に9時に集合して下さい。選手通過後は焼肉ヨンドン(校友の経営する店)内のテレビで最後まで声援しましょう。

【総会・懇親会】

今年の総会懇親会は校友会60周年記念式典と共に品川プリンスホテルにて盛大に挙行されました。来年は学内開催に戻って、7月第2週土曜日の10日午後2時から本館にて開催致します。学内見学、研究室訪問を兼ね、又、同期会を開催しませんか。皆さんお誘い合わせて多数のご出席をお願い致します。

【正会員募集】

昨年この欄でお願い致しましたが、お陰様で多少増加しました。本年は日大120周年、再来年は生物資源科学部創立60周年を迎えます。大学・学部の益々の発展を願って正会員を募集しています。年会費は1万円ですが、学部所属

正会員になりますと学部校友会に還付金が出ると共に、輝いている後輩達に様々な応援活動が出来る事になっています。詳しくは申込書に記載されていますので、学部校友会に資料請求をお願いします。正会員になりますと日本大学本部校友会から会報「桜縁」が年2回送付されます。ご連絡をお待ちしております。

【ホームページ】

学部校友会ではホームページを立ち上げています。沢山の方にご覧頂いている様で感謝申し上げます。会報は年1回で新しいニュースはホームページに頼らざるを得ません。是非、ご覧下さい。住所の変更はホームページの中から簡単に出来ます。「校友会について」のページから定型的メールが発信出来ます。是非ご利用下さい。又、ホームページでは新しい情報掲載に務めています。会合の連絡等にご利用下さい。

連絡先：日本大学生物資源科学部校友会事務局
TEL & Fax 0466-84-3799 E-mail: koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

日本大学生物資源科学部校友会

役員・事務局名簿

名誉会長		幹事	
徳内 山 龍 明	農化昭和38年卒	山 正 敏	海洋昭和38年卒
長 俊 太郎	国際昭和43年卒	内 重 則	環工昭和52年卒
副 会 長	植物昭和40年卒	青 木 正 雄	環工昭和46年卒
石 川 稔 矩	森林昭和40年卒	栢 永 彦	食科昭和41年卒
赤 関 敏 夫	食科昭和41年卒	竹 永 章	食科昭和56年卒
山 本 和 捷	動物昭和44年卒	谷 地 三 知	国際昭和44年卒
酒 赤 木 洋 行	環工昭和47年卒	早 川 治	国際昭和47年卒
幹 事	植物昭和47年卒	大 飯 憲	応生平成4年卒
藤 井 秀 昭	植物昭和44年卒	塚 塚 崇	応生平成4年卒
井 嶋 弘 功	農化昭和37年卒	司 馬 肇	農化昭和56年卒
駒 井 祥 史	農化昭和36年卒	鈴 勝 春	短大昭和34年卒
坂 井 原 祥	農化昭和55年卒	福 井 祥 子	短大昭和62年卒
中 川 秀 樹	獣医昭和40年卒	浦 原 義 明	文理昭和53年卒
佐 藤 茂 久	獣医昭和50年卒	江 刺 琢 磨	農化昭和27年卒
津 曲 幸 彦	獣医昭和49年卒	村 山 進 克	農化昭和30年卒
丹 羽 幸 次	動物昭和42年卒	遠 尾 壯 七	食経昭和31年卒
島 田 圭 一郎	動物昭和48年卒	長 尾 七 彦	動物昭和41年卒
菅 井 敦 実	食経昭和39年卒		獣医昭和27年卒
宮 島 吉 夫	食経昭和40年卒		植物昭和42年卒
阿 部 和 時	食経昭和53年卒		
吉 田 良 太郎	森林昭和46年卒		
鳥 居 太 郎	森林昭和51年卒		
	海洋昭和41年卒		
	海洋昭和39年卒		

平成20年10月4日現在	
山 正 敏	海洋昭和38年卒
内 重 則	環工昭和52年卒
青 木 正 雄	環工昭和46年卒
栢 永 彦	食科昭和41年卒
竹 永 章	食科昭和56年卒
谷 地 三 知	国際昭和44年卒
早 川 治	国際昭和47年卒
大 飯 憲	応生平成4年卒
塚 塚 崇	応生平成4年卒
司 馬 肇	農化昭和56年卒
鈴 勝 春	短大昭和34年卒
福 井 祥 子	短大昭和62年卒
浦 原 義 明	文理昭和53年卒
江 刺 琢 磨	農化昭和27年卒
村 山 進 克	農化昭和30年卒
遠 尾 壯 七	食経昭和31年卒
長 尾 七 彦	動物昭和41年卒
山 島 本 実	獣医昭和27年卒
宮 島 捷	植物昭和42年卒
山 本 吉 夫	食経昭和53年卒
熊 澤 恵 美 子	動物昭和44年卒
	森林昭和46年卒

【事務局】
事務局長 木 島 本 実
事務局員 山 島 捷
事務局員 宮 本 吉 夫
事務局員 熊 澤 恵 美 子

会報編集委員

農学校友会	野 村 和 成	桜 水 会	荒 功 一
紫 友 会	荻 原 淳	工 学 会	沢 直 樹
角 笛 会	加 納 星	F T 会	阿 部 川
満 喜 葉 会	山 室 裕	拓 友 会	早 橋 明
いもづる会	磯 田 み ゆ ぎ	湘南校友会	松 宏 肇
あすなろ会	鍛 代 邦 夫	応用生物科学会	馬 司

日本大学生物資源科学部校友会

ホームページアドレス

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~koyukai/>
またはインターネット検索機能で「日本大学生物資源科学部校友会」で検索して下さい。

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会
〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866
TEL・FAX 0466-84-3799
E-mail: koyukai@brs.nihon-u.ac.jp
印刷所 ベーシックプリント
TEL・048-833-3086 FAX・048-833-3128
E-mail: bphide833@yahoo.co.jp